

「第2回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座」

西北地区：令和7年7月10日（木）つがる市生涯学習交流センター 参加者10名

三八地区：令和7年7月16日（水）八戸市総合教育センター 参加者22名

1 内容

【講義】「子どもと保護者に寄り添う支援とは」

講師 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科
教授 差波^{さしなみ}直樹^{なおき}氏

【演習】「あおもり親楽プログラムⅠ」

進行 県総合社会教育センター職員



【経歴】

北海道教育大学を卒業後、札幌市立幼稚園3園に17年間勤務。平成26年から八戸学院短期大学幼児保育学科講師として勤務し、現職に至っている。大学では、「保育者の関わりと保育の質」等を主たる研究テーマとし、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携と接続について研究している。

また、長きにわたる幼稚園教諭の経験を踏まえ、「幼児期の教育」についての講義や、子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」ことのできる遊び場・プレーパークを学生と一緒に八戸地域で展開している。

【講義趣旨】

「子どもと保護者に寄り添う支援とは」

- ・本県はもとより国全体でも、子どもの出生率の低下が止まらないという現実がある。
- ・保護者の意識について、常勤者やパートタイムなどの働く母親の間で、子育てに対して否定的な感情が増えてきている。
- ・現代の子どもや子育てを取り巻く状況においては、課題が山積しており、子ども基本法の施行（令和5年4月）、児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）が整備された。
- ・生涯にわたる人格形成の基礎を築くこと、将来にわたって幸福な生活を送ることができるとする社会の実現を目指すことが大切である。
- ・子どもや保護者を支えるために、その思いや考えに耳を傾けて丁寧に「聴く」こと、そして支援者がそれを「思う（感じ取る）」こと、両者が抱えている課題の解決の方向性や方法を、相手の目線に立って「共に考える」ことが大切である。

2 受講者の感想

- ・年々人口が減っている中、幼児期の教育は大事なことだと改めて感じました。保護者の中には、子育てに悩んでいる方もいるので、保護者の話を聴き、一緒に考えていけるようにしたいと思いました。
- ・「一緒に考えます」のスタンスが安心感につながるというのを実感しています。子育ては迷ってしまうのが本音だと思うので、すごく心強い言葉だなと感じました。さらに、当事者の自己知覚へと導いていく言葉にもなり、子育ての自信につながっていくのかなと思いました。
- ・幼児期の教育（家庭教育も含め）は、生涯にわたり人格の形成の基礎を培う重要なものであるのに、今の親は子育てにとっても悩んでいるように思います。悩みながら子育てをしていることは、子どもにも伝わっているのではないのでしょうか。改めて傾聴することの大事さを再確認しました。